

1. 【雲南市新庁舎建設基本計画（案）について】

大東町会場

Q14：庁舎建設について、庁舎が古くて危険だから、新しく建てたいと言われたが、新庁舎をつくっても雲南市が良くなり、国道沿いであっても人が来やすいということはない。各庁舎は十分活用できる。総合センターの廃止も検討されているが、各部署を総合センターに設ければもっと地域が活性化する。

関連質問：市民が来やすい庁舎を目指すとするが、新庁舎の位置で市民が来やすいかどうか。新庁舎建設に係り、参考にされた近隣の3市の規模を聞きたい。

A：庁舎は分散型が良いと言われたが、残っている総合センターは古いものが多く、いずれ早い段階で立て直さねばならない。合併特例債を使わないとなると、全額一般財源の対応となり大きな財政負担となる。また、分散型は効率的でないことから、1か所での行政運営が基本的な考え方である。暫定庁舎も昭和45年建設で、コンクリートの耐用年数を一般的に50年とすると残り数年しかない。これを改修するとかなりの経費になり、将来的には二重投資になる可能性がある。合併特例債は有利な財源なので、平成26年までに活用して建てて行く必要がある。平成27年以降、同じ庁舎を建てると更に15億円の持ち出しが必要である。庁舎建設の参考とした3市は人口規模と合併後庁舎を建てたということで、これを参考にして計画案を策定した。（総務部長）

Q15：中央へ庁舎を建設するとのことだが、雲南市の周辺部はいろんなものがなくなった。塩田小学校は、閉校になった。中央、中央でいいのか。声を聞きましょう、理解しましょう、と言うが、今夜ここにきている皆の気持ちを考えて欲しい。市政懇談会の場で決まったことを言われてもどうにもならない。

関連質問：今、地域で高齢者などを支えようということがさかんに言われる。子どもから高齢者まで元気に過ごすため地域が主役になるという発想だ。市が考えているのは、庁舎も融合施設も1か所に集める発想。4万人の人口があるが、どれだけの利用があるのか。それより地域を活性化するため、地域にお金を落としてほしい。

A：塩田小の統合を例にとって、中心を大切にする施策ばかりという意見である。気持ちは十分察するが、合併時には中学校7校・小学校25校あったが、各地区から子どもが少なくなり、掛合町では5つの小学校すべてが廃校になり、新しく掛合小学校ができた。廃校になった5つの小学校をどう活かすか検討され、実践されつつある。既に波多・入間は地域の拠点となっており、あと3つも順次行っていく。塩田小学校の場合も、地域で話し合われた結果、大きい小学校で切磋琢磨される環境の中で育つ方がいいと地域で考え決断されて統合となった。小学校は地域活性化の拠点として活かすため検討されており、いずれ具体的な形となる。人が多く集まるところ、市庁舎のあるところが中心部とすれば周辺部と表現する場所はどこにもある。しかし、住んでいて良かったという思いを抱きながら暮らしていける雲南市を、皆さんと力を合わせてつくっていく。（市長）